

手術支援ロボ 最新型導入

倉敷成人病センター、中四国 3 施設目

精密操作、患者負担少なく



倉敷成人病センターに導入されたダビンチ5を使った初めての手術 (同センター提供)

倉敷成人病センター（倉敷市）は、最新型の手術支援ロボット「ダビンチ5 サージカルシステム」を導入した。中国四国地方で3施設目。同センターの手術支援ロボットは4台となり、最新技術の活用により患者に負担の少ない医療の提供につなげる。

ダビンチ5は、直径8ミリのアームを4本備え、1本の先端にカメラ、はさみ形の医療器具である鉗子（かんし）を3本に取り付ける。腹部に開けた穴からアームを入れ、執刀医は3次元映像を見ながらコントローラーを通じて鉗子を動かして手術する。

既に導入している「ダビンチXi」に比べ、鉗子で患部などに触れた際の力がコントローラーに伝わるようになり、3次元映像の解像度も向上。さらに精密な操作が可能になった。6日に機器を導入、10日に手術で初めて活用した。導入費用は約3億円。

同センターによると、手術支援ロボットを活用することで精密な手術ができ、時間を短縮する利点があるという。2013年に初めて導入。台数を増やしながら婦人科や泌尿器科、外科、呼吸器外科などに活用領域を広げ、25年11月末までに5

124件の手術を手がけてきた。

同センターは「デジタル技術のサポートが強化され、最新のロボット手術が可能になる」としている。
(筒井晴信)